

# 英国と欧州における 気候市民会議の最近 動向

---

- スティーブン・エルスタブ教授
- ニューカッスル大学
- [stephen.elstub@ncl.ac.uk](mailto:stephen.elstub@ncl.ac.uk)
- @StephenElstub

※ 本スライドの翻訳は事務局による仮訳です。  
原文と照らし合わせて確認していますが、正確  
な理解のために、原文も参照されることをお勧  
めします。





# 主な内容

---

気候市民会議の必要性

---

気候市民会議の論理

---

ヨーロッパの気候市民会議

---

気候市民会議の教訓と今後の方向性

# 市民の巻き込みと気候ガバナンス

- 気候変動に関する議論の見物人としての市民
- 気候問題に特定グループの代表が少ししか参加していない
- 気候変動に起因する課題に関する市民の理解を高める
- 気候変動対応に必要な政策への市民の同意を強める
- より野心的な政策立案を可能にする
- 市民に気候変動の意識を高めた行動変容を促す
- 合理的で公正な決定



# 政治的参加の課題

1. 参加者の人口構成の偏り
2. 知識の不足
3. 新しい考えを受け付けない



# 気候ガバナンスにおける代議制民主主義の制約

- 投票への動機づけ
- 短期的な政治サイクル
- メディア・ナラティブ
- ロビイング
- 「気候変動の遅れ」という言説  
(気候変動の存在を認めながらも、不作為や不十分な取り組みを正当化)





# 気候市民会議とは何か

- 市民による会議の一種
- 気候ガバナンスの側面に着目
- 多様な市民の代表
- 参加への障害を低くする
- バランスのとれた情報
- 議論を促進
- 提言
- 制度的つながり

## 気候市民会議の論理

- インクルージョン
- オープンマインド
- 熟議
- 学習
- 意見交換
- 提言



## Figure: Deliberation is being used to solve long term issues, in particular environmental topics

Number of times a policy issue has been addressed through a representative deliberative process

環境  
 戦略的計画立案  
 都市計画  
 諸問題  
 健康  
 その他  
 インフラ  
 市民参加  
 公共サービス  
 運輸  
 エネルギー  
 家庭  
 テクノロジー  
 地域的問題  
 公共支出  
 制度設定  
 文化  
 選挙制度改革  
 ジェンダー平等  
 立法制度改革  
 憲法問題  
 税制  
 司法  
 汚職防止

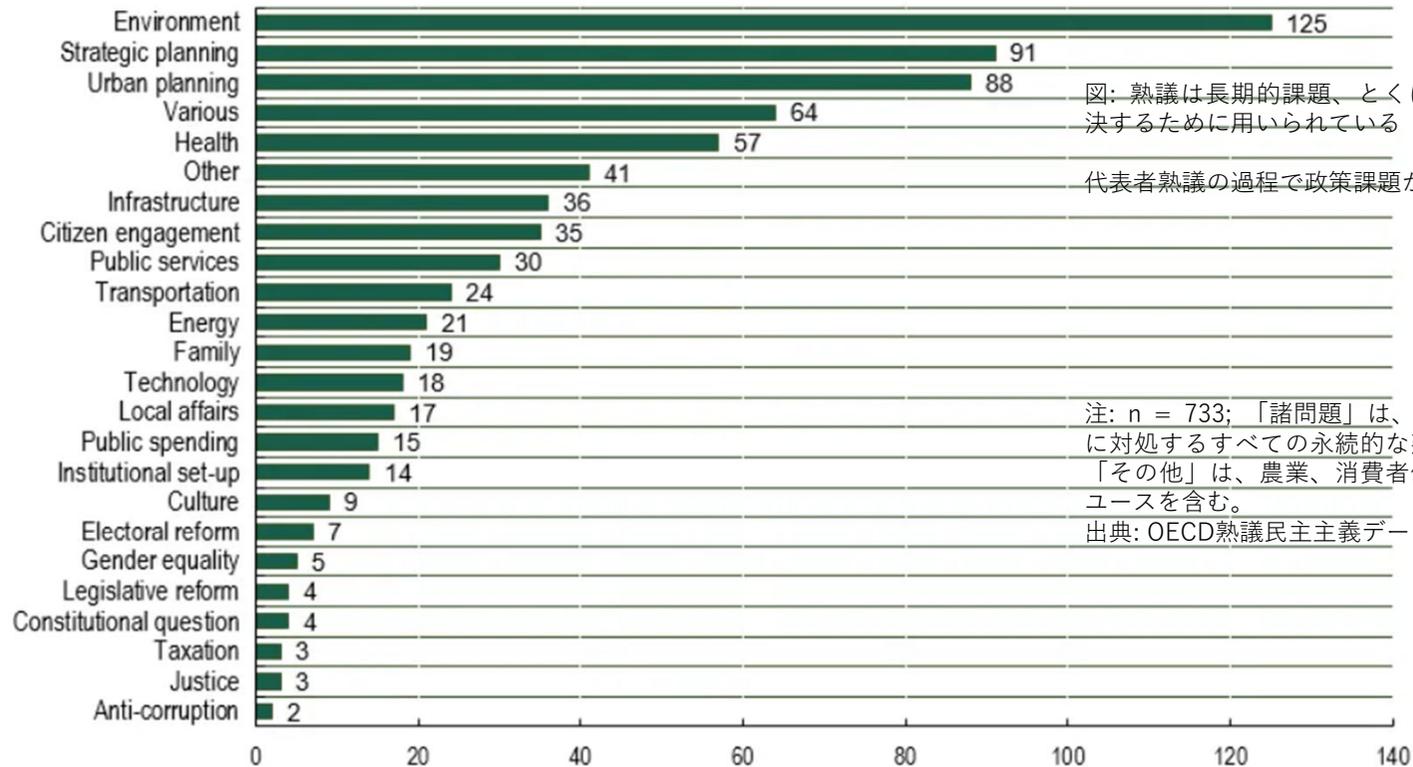


図: 熟議は長期的課題、とくに環境的トピックを解決するために用いられている

代表者熟議の過程で政策課題が取り上げられた回数

注: n = 733; 「諸問題」は、複数の異なる政策課題に対処するすべての永続的な熟慮プロセスを含む。「その他」は、農業、消費者保護、移民、水管理、ユースを含む。

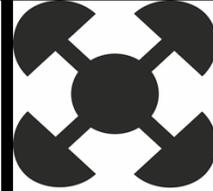
出典: OECD熟議民主主義データベース(2023)

Note: n=733; Various include all the permanent processes as they regularly address different policy issues. Other include agriculture; consumer protection; migration; water management; youth.  
 Source: OECD Deliberative Democracy Database (2023).



Climate Assembly UK

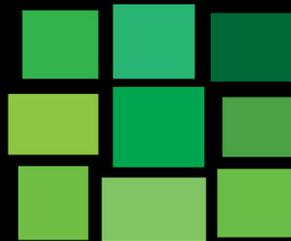
THE PATH TO NET ZERO



Global Assembly



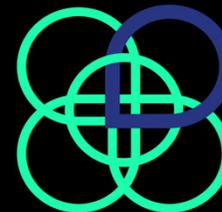
An Tionól  
Saoránach



The Citizens'  
Assembly



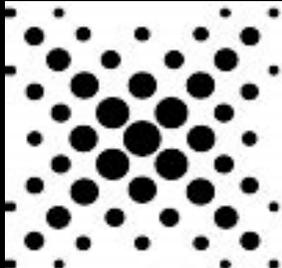
BÜRGERRAT



ASAMBLEA  
CIUDADANA  
PARA EL CLIMA



BürgerRat Klima  
#lasstunshandeln



Scotland's Climate  
Assembly  
Seanadh Gnàth-shìde  
na h-Alba

Klima-  
Biergerrot



# 気候市民会議の 広がり

- 気候変動を議題にする
- 政府への信頼の低下
- アイルランドCAの「成功」
- 社会運動—エクステンク  
ション・レベリオン（ER）など
- 市民参画の実践者たち
- 自治体や国との接近
- 市民に影響することを目指す



# ヨーロッパの 気候市民会議 の比較: 類似性

- なじみ深いCA型式
- 適応より影響緩和が優位
- 幅広いスコープ
- 一回限り/アドホック



# 気候市民会議の功績

- 多様なグループが結集
- 包摂的で敬意を持った熟議を達成
- 気候変動と脱炭素の知識の増大
- 市民会議メンバーはネットゼロが比較的達成可能だと考える
- 現在の政策より野心的な提言



## ヨーロッパの気候市民会議の比較: 相違点

- 任務 (エージェントおよび幅の広さ)
- エビデンスと情報
- プロセスの設計とファシリテーション
- 実施期間
- 予算
- ガバナンス (公務員、議員、実務家、AM、専門家、ステークホルダー)
- 広報活動
- 制度的統合
- 政策の採用



# ブリュッセルの常設の 気候市民会議

- 2023年2月に開始
- 65-100人の市民会議メンバー
- 年1回交代
- ブリュッセルの気候政策のサブテーマを各パネルが1つずつ担当
- 前回の市民会議で選ばれたアジェンダ
- これまでのトピックス: 住まい、食糧
- 提言への対応をモニターする委員会



# 気候市民会議の教訓と今後の方向性?

1. 市民会議のモデルは気候に対して有効に働く
2. 気候市民会議のモデルは多くの文脈に移植できる
3. 世界の他の地域への普及
4. もっと国境を越えた気候市民会議
5. 活動範囲と時間の課題
6. 適応とシステム変化の課題の強化
7. 気候市民会議を民主化する
8. より広い市民の関与
9. 他の気候エンゲージメント手段との統合
10. コミュニケーションの改善
11. 制度化され/社会に組み込まれた気候市民会議
12. これが一過性の流行ではないかという懸念



# 情報源

- 英国気候市民会議の評価:  
<https://www.parliament.uk/globalassets/documents/get-involved2/climate-assembly-uk/evaluation-of-climate-assembly-uk.pdf>
- ‘気候市民会議のスコープ: 英国気候市民会議からの教訓’, *Sustainability* 13, no. 20: 11272 (2021). オープンアクセス:  
<https://www.mdpi.com/2071-1050/13/20/11272>
- ‘公式および非公式な公共圏への気候市民会議の影響力: 英国気候市民会議のケース’, *民主的イノベーションの影響力*に収載, Colchester: ECPR Press, pp. 139-160. (2023) オープンアクセス:  
[https://pure.unamur.be/ws/portalfiles/portal/91415928/The\\_Impacts\\_of\\_Democratic\\_Innovations\\_PDF\\_Online.pdf#page=155](https://pure.unamur.be/ws/portalfiles/portal/91415928/The_Impacts_of_Democratic_Innovations_PDF_Online.pdf#page=155)
- スコットランドの気候市民会議調査報告書:  
<https://www.gov.scot/isbn/9781804353073>
- 気候と生態系の危機に関する世界会議評価報告書:  
[https://researchsystem.canberra.edu.au/ws/portalfiles/portal/82182314/Global\\_Assembly\\_Evaluation\\_Report.pdf](https://researchsystem.canberra.edu.au/ws/portalfiles/portal/82182314/Global_Assembly_Evaluation_Report.pdf)
- 来るべき2024/25: 気候市民会議: 気候変動下の世界のための新しい市民制度, De Gruyter.

